

マンガふるさとの偉人

たざわみのり

田沢実入と

おおこうづぶんすい

大河津分水





マンガ **ふるさと** の偉人

たざわ　みのり

田沢実入と

おおこうづ　ぶんすい

大河津分水

## 読者のみなさんへ

日本一の長さをほこる信濃川は、かつて暴れ川とよばれ、大雨が降るたびに洪水をくり返していました。新潟の人は、せっかく作った米や野菜が洪水のたびに流されて、とても困っていたのです。

そこで、大河津分水を作って、新潟の人たちを水害から守ろうと立ち上がったのが、主人公の田沢実入です。

この物語は、父親の与一郎とともに、親子二代にわたって大河津分水を完成させるためにその生涯をささげ、地域の発展に貢献した人たちのお話です。

## 目次

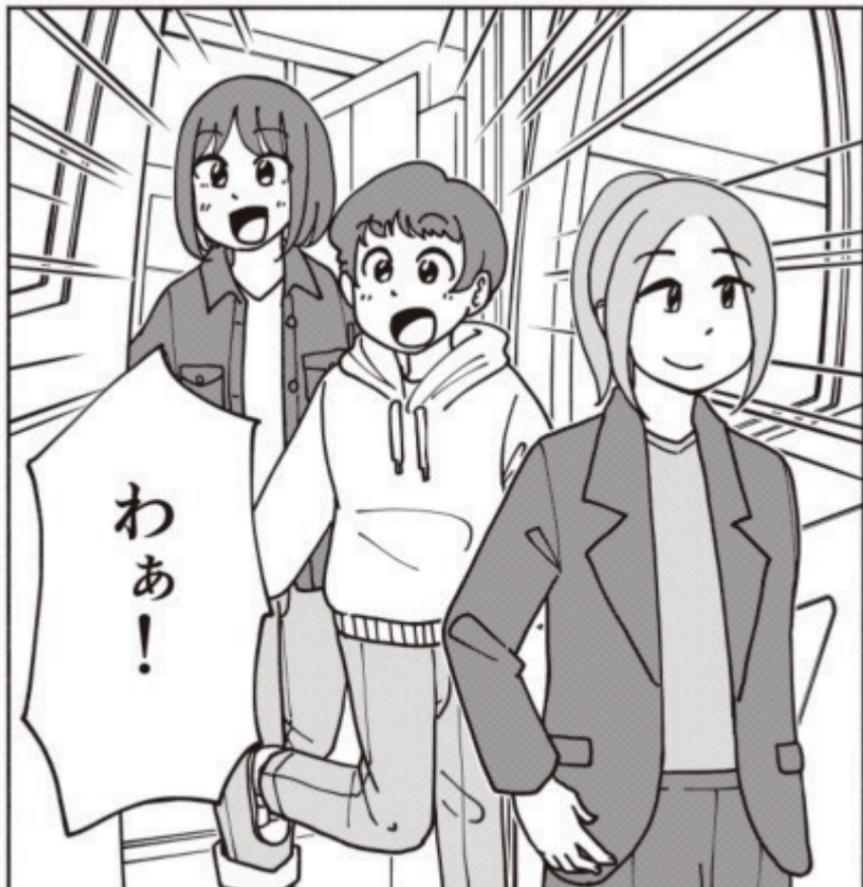
マンガ

田沢実入と大河津分水

3

資料編

93



アアアアア

わあ！おお大きい建物！  
何あれ！たてもの



あの建物は  
洗堰あらいせきと言って

大雨おおあめのとき川かわの水みづが  
あふれないよう  
大津おほつ分水ぶんすいで  
信濃しんのう川のかみ水の量りょうを  
調節ていせつする役目やくめが  
あるのよ！

大津おほつ分水ぶんすい!?





さっそくだけど

二人は新潟県  
って言ったなら  
何を思い浮かべる？

え〜と…

やっぱり…

おいしいお米!!

そうだよな  
今ではおいしい  
お米も

※とりまぎ米

昔は鳥も食べない  
おいしくないお米と  
言われていたんだよ

え〜!

意外!

その理由は  
昔の田んぼが…

こんな感じで  
水浸しだったから

おいしいお米が  
育たなかったんだ

腰まで田んぼに  
埋まってる!

どうして  
こんなに水浸し  
だったんですか?

それは新潟の  
土地が関係するんだ

大変…

越後平野は洪水で川から運ばれた砂がたまってできた土地で

川より土地のほうが低い場所が多いからとても水はけが悪いんだ

特に信濃川が大きく曲がるこの場所は(※)

大雨になると堤防が壊れて水浸しとなり昔から治水の必要があったんだ

治水？

樋口さん  
治水って何ですか？

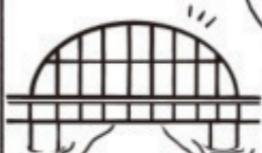
※今の燕市(旧西蒲原郡分水町)

治水って  
いうのは

大雨で堤防が壊れて  
水浸しにならないように  
改良・保全することだよ

ちずい  
治水

橋を架ける



堤防をつくる

新しく川をつくる

ええええ!  
川を  
掘ったの!?

どん!

そして大津波は  
信濃川が大きく  
曲がり海に近い  
この場所に人が掘った  
川のことなんだよ!

あんな大きな  
川どうやって  
掘るの?

どれくらい  
の人が工事  
したの?

いつ?

誰が?

えーっと  
どこから  
話そうかな...

そうだ!

たごわ のり  
**田沢実入**  
 (1962~1988)

古河村(現在の新潟市)出身。  
 古河村の社員であった父・与一郎(もと与左衛門)は、  
 大河津分水工事(第1期)の完工を契機に退いた運動家の1人。  
 分水工事が中止となってからは、  
 田沢実入は父や仲間とともに工事再開に向けて熱心な運動を続け、  
 明治14年(1881年)に運動母体として「信濃川治水会社」を設立。  
 また「信濃川治水論」を執筆するなど、  
 大河津分水の復原地を広く知らせました。  
 彼は、「水の害害を治しうするは、人のこれ多治めがればなり、  
 水の害にはあらざるなり」と述べ、  
 新潟平野では長期に亘る(水に浸かること)による作物の被害や  
 水質悪化による人的被害があることについても述べています。  
 のちに内閣官に殉難し、  
 再開された大河津分水工事(第2期)にも従事しました。



新潟の人で  
 この工事に親子二代で  
 関わった人がいるよ

その名は父である田沢与一郎と  
 息子の実入親子です  
 特に実入は深く関わった人だよ!



実入の人生は  
 大河津分水の  
 歴史そのもの  
 といえる

今の新潟の  
 暮らしはこれまでの  
 人たちの治水への取  
 り組みが受け継がれ  
 たからなんだよ

今から  
 約三百年前



享保のころ(一七二六〜一七三五)



八代將軍  
徳川吉宗のもと  
江戸時代も中ごろを  
むかえるころ

寺泊にいた  
本間屋数右衛門  
という人が



大河津分水の  
工事を幕府に  
願いだしたのが  
始まりだった

本間屋数右衛門の墓

その後も  
繰り返し  
工事を願ひ  
するが

むずかしい工事で  
たくさんのお金がかかるため  
実現しなかった

嘉永五（一八五二）年



新発田藩の  
古川（現在の  
新潟市南区）

庄屋であった  
田沢与一郎の  
息子として



実入は  
生まれる

父、与一郎は



治水を目的とした  
大津分水の  
工事をお願いしていた

とて  
囲い土手

この頃の  
信濃川下流は  
潟や沼の水抜きのために

網の目のような  
水路のほかに  
村を囲うように  
堤防がつくられていた

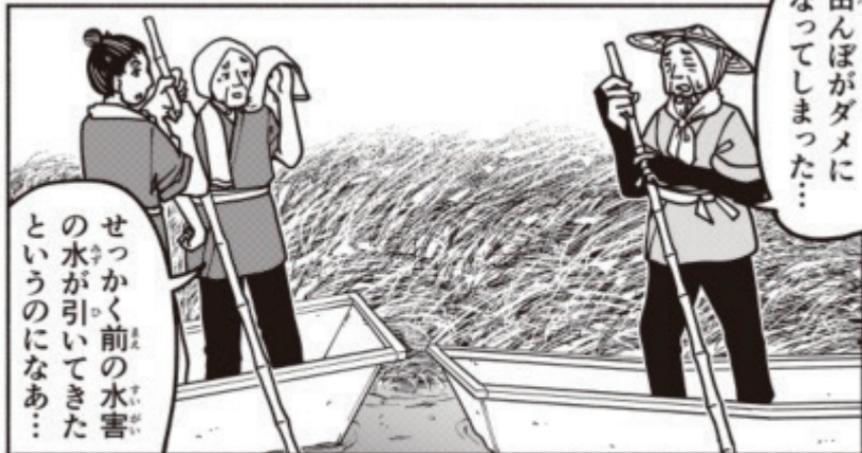


それは  
およそ三年に一度  
信濃川の堤防が  
壊れるため

繰り返し起こる  
水害をなんとか  
するためだった



また水害で  
田んぼがダメに  
なってしまった…



せつかく前の水害  
の水が引いてきた  
というのになあ…

うちの村じゃあ  
たまった水から  
伝染病が広まって  
しまつて…

うちの村もだよ  
本当に勘弁してほしい  
よなあ…

やはり今までの  
やり方では  
限界がある…

そもそも信濃川を  
あばれない川に  
せねばいかなあ



慶応元(一八六五)年

よおしし!

旅の支度は  
万全だな!

父さん  
どこへ行く  
のですか?

江戸だ!  
うちのお殿様の  
命令でな!

江戸の將軍様に  
信濃川の分水河川の工事を  
お願いしてくるんだ!

信濃川の  
ぶんすいかせん  
とは何ですか?

もうひとつでっかい  
川を作るのだ!

でも、ただの  
でっかい川じゃない

この川かわがあればな

信濃川しなのがわの堤防ていぼうが壊れるこわ  
事がことなくなつて  
水害すいがいにならなくてすむ

しかも！

それだけ  
じゃない！

水みづはけが良よくなれば  
伝染病でんせんびょうもなくなるし  
米こめや野菜やさいもよくできる！

そうすれば  
越後えちごはもつと  
豊ゆたかになるぞ！



実入<sup>みのり</sup>  
父<sup>とつぬし</sup>さんはな

越<sup>えちご</sup>後の<sup>みらい</sup>未来<sup>つく</sup>を<sup>つく</sup>創<sup>つく</sup>る<sup>かわ</sup>川<sup>かわ</sup>を  
作<sup>つく</sup>り<sup>たい</sup>たい<sup>のだ</sup>の<sup>だ</sup>だ!



父<sup>とつぬし</sup>さんは

す<sup>す</sup>ご<sup>ご</sup>い<sup>い</sup>川<sup>かわ</sup>を  
作<sup>つく</sup>ろ<sup>う</sup>と<sup>し</sup>て<sup>る</sup>ん<sup>だ</sup>



じ<sup>じ</sup>ゃ<sup>あ</sup>な<sup>な</sup>実<sup>みのり</sup>入<sup>り</sup>!  
行<sup>い</sup>っ<sup>て</sup>く<sup>る</sup>ぞ<sup>ぞ</sup>!

この二年後の  
慶応三(一八六七)年



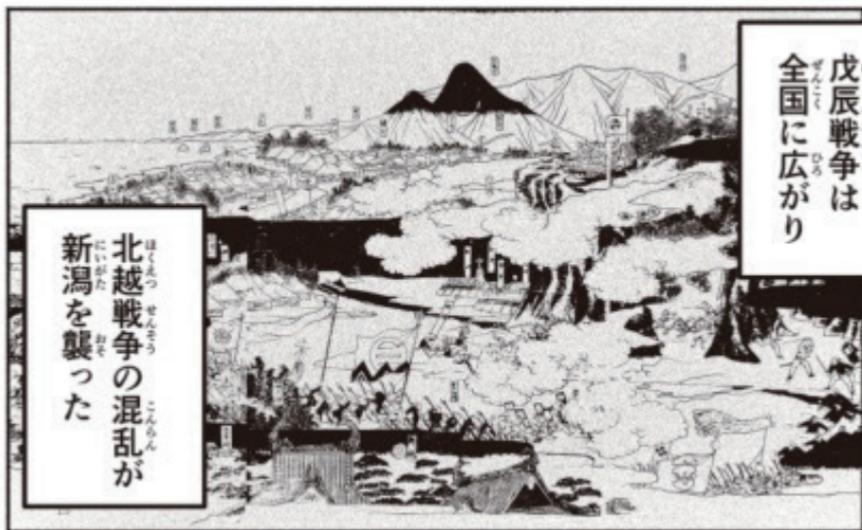
十五代将軍  
徳川慶喜は  
大政奉還を  
行い

その後  
明治政府の発足



そして  
戊辰戦争と  
大きく時代は  
動いていた

戊辰戦争は  
全国に広がり



北越戦争の混乱が  
新潟を襲った

その間も新鴻では  
相変わらず

信濃川による  
水害が発生しており

与一郎は新政府にも  
大河津分水工事を  
願っていた

そのかいあって  
明治三(一八七〇)年

大河津分水の  
第一期工事が  
開始されること  
になった

しかし  
工事開始から五年後の  
明治八（一八七五）年

とう  
父さん

どうしました？  
ぼんやりして…

じつ  
実はな実入…

こうじ  
工事が中止になった…

えっ  
!?

せつかく  
始めたのに…  
どうして…？

それが…

新政府のお役人は  
工事が進まないのを  
心配したよう



さらに  
外国の技術者によれば  
大津分水が  
新潟港を浅くし船の運航  
に影響があるとかでな...



せっかくここまで  
頑張ってきたのに...



父さん...

僕も父さんを  
手伝えないだろうか？





こういった  
昔ながらの手作りの  
道具を使って



クワやツルハシなどで  
人の力によって掘り進めたから  
とっても時間がかかったんだ



ええ!?  
掘るのも運ぶのも  
すべて人がやったの!?

それは大変!

それだけ多くの人の  
協力が必要な  
大きな工事だったんだ



明治十二(一八七九)年  
二七歳の時―

実入は  
中蒲原郡書記  
として

政治から  
大河津分水が  
必要なことを  
人々に訴え始める



やはり大河津分水  
の実現こそが

新潟の治水には  
欠かせないものだ...

しかしだよ  
田沢君



ですから―



その工事の代わりに  
信濃川の堤防を  
強くする工事を  
するそうじゃないですか

それなら堤防で  
十分だろう

大河津分水は  
工事に  
時間がかかるしね

堤防の方が  
お金かからないし

ああっ…

その堤防だって  
大雨のたびに  
壊れているじゃないか！

信濃川の水の量を  
調節できる仕組み  
がなければ

すべての解決に  
ならないんだ！

# 信濃川分水会社

明治十四(二八八二)年  
こうした状況に  
危機感を持った実入は

信濃川分水会社を  
設立して大津分水  
の実現に向けて  
仲間を集めた



新潟の治水について  
もっと広く意見を  
伝えなくては!

そしてこの時  
この会社から  
「信濃川治水論」  
を発表する



信濃川は巨大で何本もの川が  
流れ込んでくる

大雨が少し続くとすぐに  
流しきれない水量になり  
堤防が壊れてしまう

そこで途中に川を掘り、  
上流から流れてくる水を  
調節できるようにする

それがすなわち大津分水なのだ



信濃川治水論は  
新聞などにも  
掲載され

信濃川治水論

後編

後に続編も  
発行された

明治十六（一八八三）年  
実入は三一歳で  
県議会議員に初当選

議員になっても  
やることは  
変わらん！

大河津分水が  
必要なことを  
訴えるんだ！



議員になった実入は  
政府や新聞社に大  
河津分水の建設を訴える手紙を書いたり



頻繁に新潟と東京を  
行ったり来たり  
精力的に活動を始める



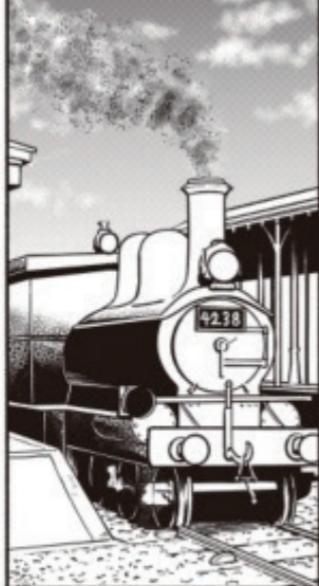
どうか!  
大河津分水の  
工事再開を  
お願いします!

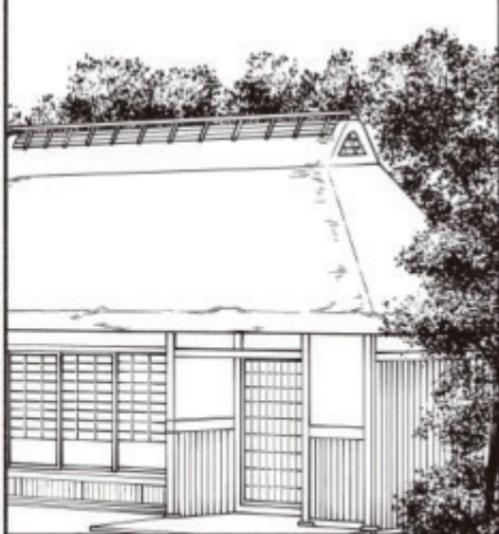
こちらは新潟が  
水害と戦ってきた  
百五十年分の  
記録です!

ええ!!  
百五十年分!  
拝見します!

今日は資料を  
まとめてきました

ええ...  
でもですね田沢さん





父さん！

実入…

工事を必ず  
再開させるんだ…

今度は…  
お前の番だ

越後の未来のために

努力…せよ…

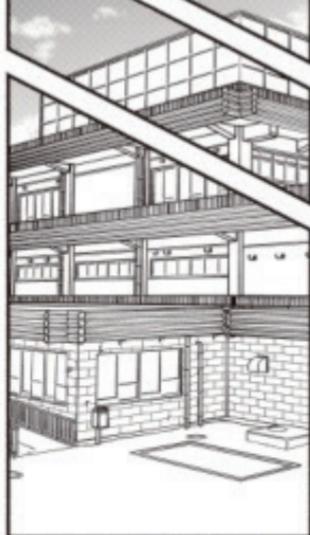


分わかかったよ父ちちさん…



必かならず…  
やり遂とげてみせるよ

実入みのり、三三歳さいの  
ことであつた



与一郎さんは工事再開が  
できなかったんですね

ぴえん

そうなんだ  
だから実入は  
さらに工事再開に  
向けて活動に  
力を入れるんだ



家売って活動するための  
お金を得ていたり…



ええ！

大河津分水の建設は  
田沢親子二代の  
悲願になっていったんだ



いらっしやい

またかい  
田沢さん…

これで  
最後だよ！

質

高<sup>たか</sup>そうなもの  
全部<sup>ぜんぶ</sup>持ってきた！  
買<sup>か</sup>い取<sup>と</sup>ってくれ！

ええ！？

与<sup>よ</sup>一<sup>いち</sup>郎<sup>ろう</sup>の死<sup>し</sup>の後<sup>あと</sup>

実<sup>みの</sup>入<sup>り</sup>は  
大<sup>おお</sup>河<sup>こう</sup>津<sup>づ</sup>分<sup>ぶん</sup>水<sup>すい</sup>の  
建<sup>けん</sup>設<sup>せつ</sup>にさら  
にのめりこむ



田沢議員、あなた最近  
大京津分水の建設活動で  
生活が苦しいと聞いたが



そんなに  
お金がなくて  
議員活動が  
務まりますか？  
あなたの家は  
庄屋だったと  
聞きましたか？

はは…  
日本に庄屋  
なんて職業の  
人はいませんよ



そりゃあお金持ちは  
いるでしょうが…

農民の方々の稼ぎの一部を  
頂いて生きているだけですから



明治十九（一八八六）年  
実入は三四歳で  
県議会議員へ二度目の  
当選を果たすが



いよいよお金が  
無くなってきた



お金が必要だが…  
せっかくなら工事に  
役に立つ仕事は  
ないだろうか？



うむ…

ど ぼくこうじ  
土木工事…

土木工事の  
すゝめ

ニ



そ うれい えば 私 は  
土木工事 について  
よく 知らない

よく 知 る こ と が でき ば  
大 河 津 分 水 の 建 設 に  
具 体 的 な お 願 い が  
でき る か も し れ ない ぞ !





こうして実入は  
新潟県庁  
土木課の職員  
として働き始める



実入は新潟県  
のみならず  
たくさんの方の  
土木工事に  
関わり

明治二十年頃から  
十年近く郷里を離れて  
全国を飛び回って  
土木工事の勉強をする

実入が岐阜県庁で働いている時にその日はやってきた

ザアアアアア

七月一九日の午後から降り始めた雨は強まり

土木課

その後  
本州の広い範囲で  
大雨が続いた

もう三日続けて  
大雨だね：

ザアアアアア

長野県や新潟県の方に  
向かって雨雲が  
進んでいるようですよ



明治二九（一八九六）年七月三日  
大雨により信濃川の堤防が  
八百カ所にわたり壊れた



越後平野の  
ほぼ全域が水浸しとなる  
大水害が起こってしまう

なかでも横田切れ  
と呼ばれる水害は  
大水害となった



水はけが  
悪い土地では

横田切れによる  
水が冬になるまで  
たまり続けた

この水害で  
農作物は枯れ

家屋は壊され

伝染病が広がった

ゲホッ  
ゲホッ  
ゲホッ



横田切れ!?  
新潟で大水害!?



大河津分水があれば  
堤防が壊れることなく  
水を海に流せたはず…

どうしていつも  
貧しい村々の人たちが  
苦しまねばいかんのだ…



せつかくここまで  
頑張ってきたのに…



あの時の二の舞に  
なつてはダメだ！

父さん！今度こそ  
俺が何とかする番だ！

ガタン



もう待てません！

大河津分水を  
今から作りましょう！

今すぐ作らねば  
もう百五十年、  
いや二百年と

水害の歴史を資料に  
書き加えること  
になります！

私はこれ以上  
新潟の人々が苦しんでいる  
姿を見たくありません！

確かに…  
その通りですな…

ここは国が動くべきと  
我々も強く感じております

大河津分水の建設を  
大臣に掛け合ってみます



ありがとうございます！

こうして政府も  
大河津分水工事  
再開に向けて  
動きはじめた





しかし  
新潟県議会では

大河津分水の建設  
について賛成されました

異議あり！

道路整備が先だ！  
こんな決定は無効だ！

いや違う！  
港の整備が  
先だ！

新潟は港町だ！

何言ってる！  
決定されたんだ  
ふざけたことを言うな！

なんだと!?

大河津分水工事を  
巡って一致団結  
できず

乱闘騒ぎに  
なってしまっ  
ほどだった

実入たち工事再開を  
願う人々は諦めなかった

みんなよく  
考えてくれ

大河津分水によって  
水害の危険性を減らせば  
道路も港もつと自由に  
つくれるんだぞ！

この時代の  
日本では

大日本帝国憲法  
が定められ

大日本帝国憲法

第一章 天皇

第一條 天皇  
ヲ統治ス

第二條 皇位  
ヲ皇男子  
リ皇男子

第三條 天皇  
ヲ

第四條 天皇  
ヲ

總覽シ此ノ

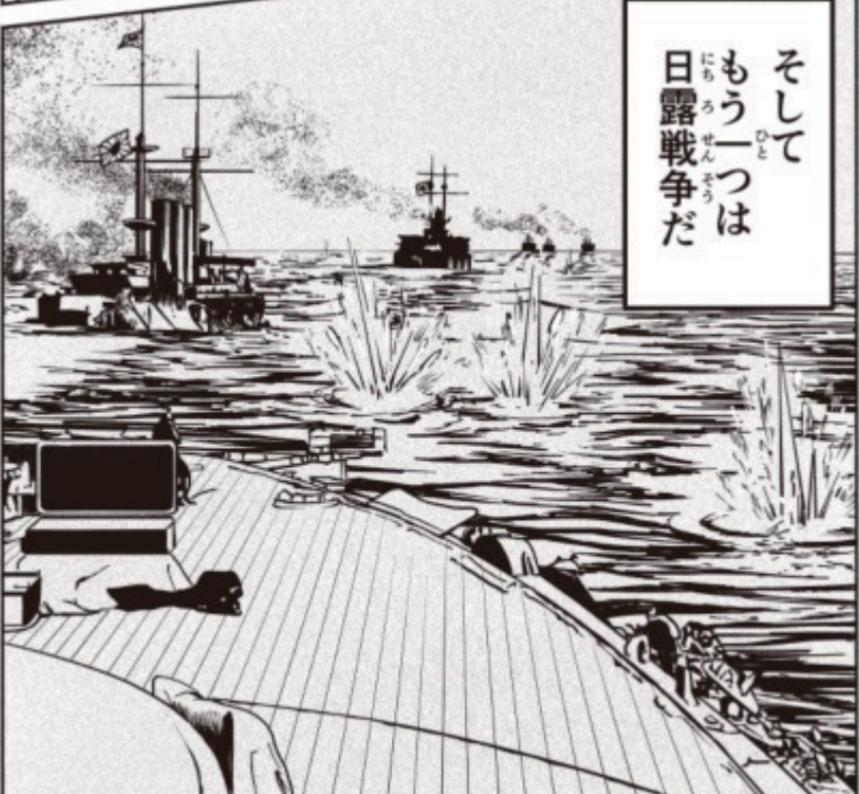
衆議院議員選挙や  
帝国議会などが  
初めて  
おこなわれた頃だ





そして  
明治維新後  
初の外国との戦争も  
経験することになる

ひとつは  
日清戦争

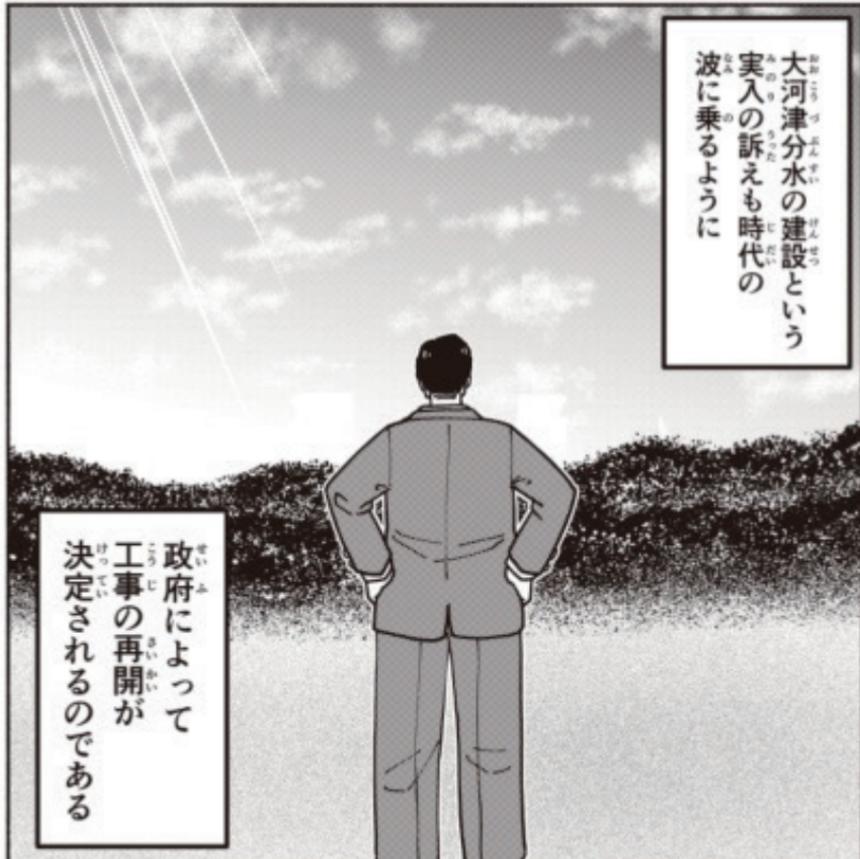


そして  
もう一つは  
日露戦争だ



こうした情勢で  
世界と日本の  
関係が変わり  
始めた時代

国内も更なる  
近代化への流れが  
起こりつつあった



大津分水の建設という  
実入の訴えも時代の  
波に乗るように

政府によって  
工事の再開が  
決定されるのである



こうして  
始まる工事は  
当時としては  
とても大きな  
工事だったんだ



当時の日本の人口が  
4400万人に対して  
工事に関わった人は  
のべ1000万人もいた!

日本人の四人のうち一人が  
工事に関わったってこと!?

99!!

1000  
万人



そう、この工事に  
関わった人たちの中に  
実入もいたんだ



そんなに  
掘ったの!?

そして工事で  
掘った土は  
ダンプカーに積むと  
地球一周しちゃうよ!

明治四二（一九〇九）年  
第二期工事が開始





最新の機械は  
それだけじゃないぞ！  
あれはエキスカベーター  
土を蒸気力で掘る！

掘った土が  
自動で機関車の  
トロッキに入ってる！

どん！



硬い岩盤にはスチームナビー  
蒸気力でシヨベルを  
動かしてどんどん掘るぞ！

人が掘れない部分も  
機械が手伝って  
くれるのか！

どどん！



当時の最新の機械  
を使って  
行われた工事は

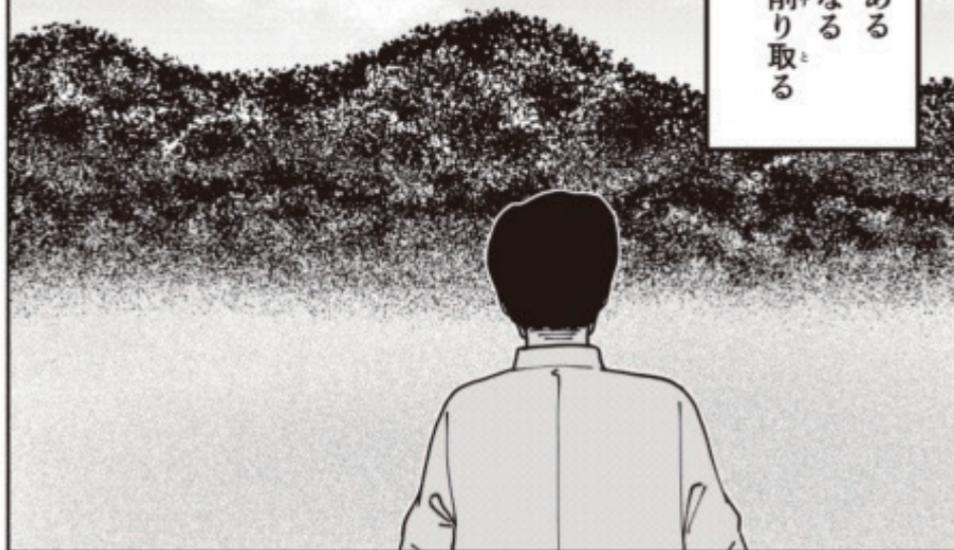
その巨大な規模から  
「東洋」の大工事」と  
呼ばれるようになった

しかし大変な  
工事だよなあ

そうだなあ  
なにせあれを  
削るんだからなあ

この工事の  
一番の難しい所は—

河口付近にある  
弥彦山に連なる  
小高い山を削り取る  
ことだった



小高い山々の  
高さは百メートル  
を超えて



人々からは  
化け物工場(※)  
と呼ばれる  
地滑り地帯だった

※とても危険な工事箇所のこと



しかしやはり  
工事中には数回の  
地滑りに見舞われる

特に最初の地滑りは  
六百万立法メートル<sup>(※)</sup>に  
及ぶ巨大なものだった





やらんばなんねんだ!

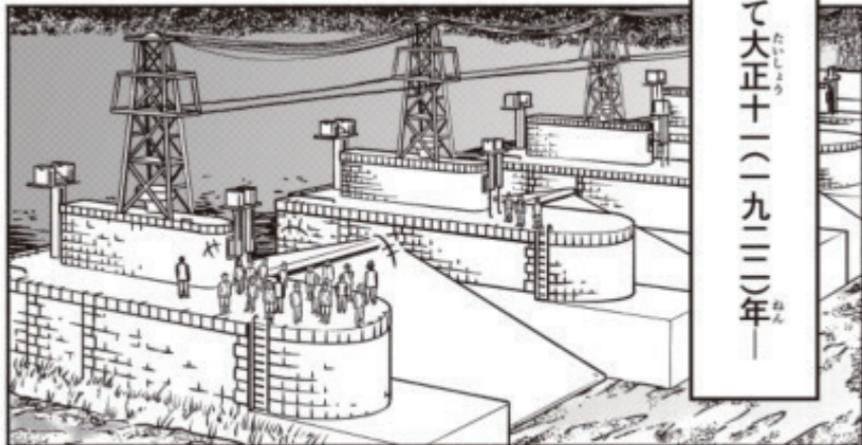
新潟の未来のためには  
大変でもやらんばなんねんだ!

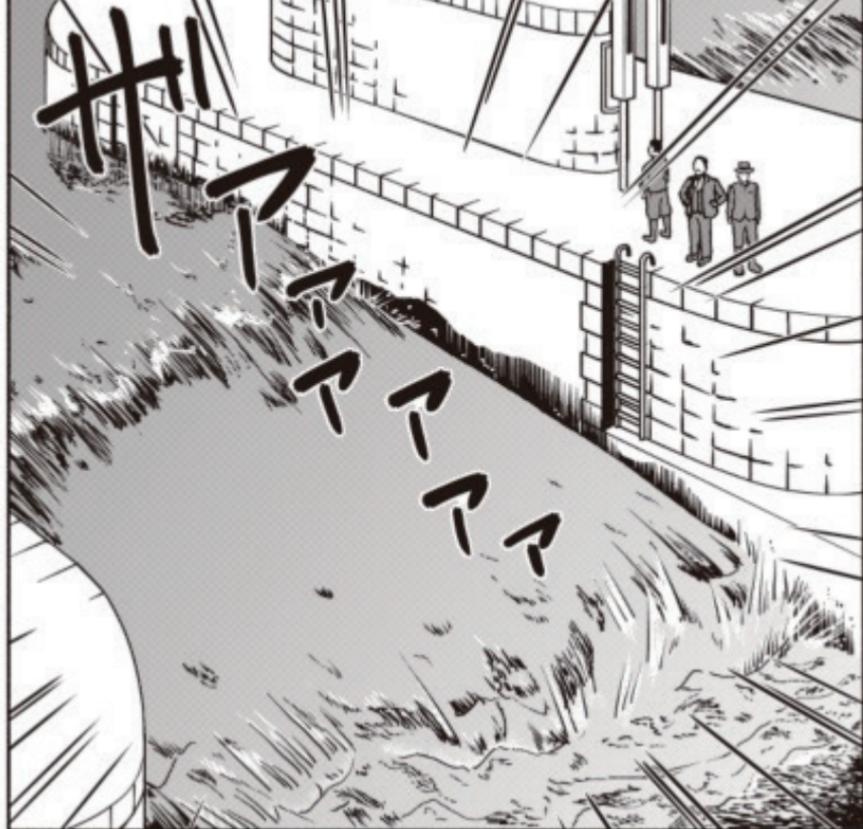


この間、実入は  
機械工場や  
周辺の川の係を  
いくつも  
受け持ちながら

土地収用事務(※)や  
石材の切り出しなど  
いろいろな仕事をす

そして大正十二（一九二二）年—





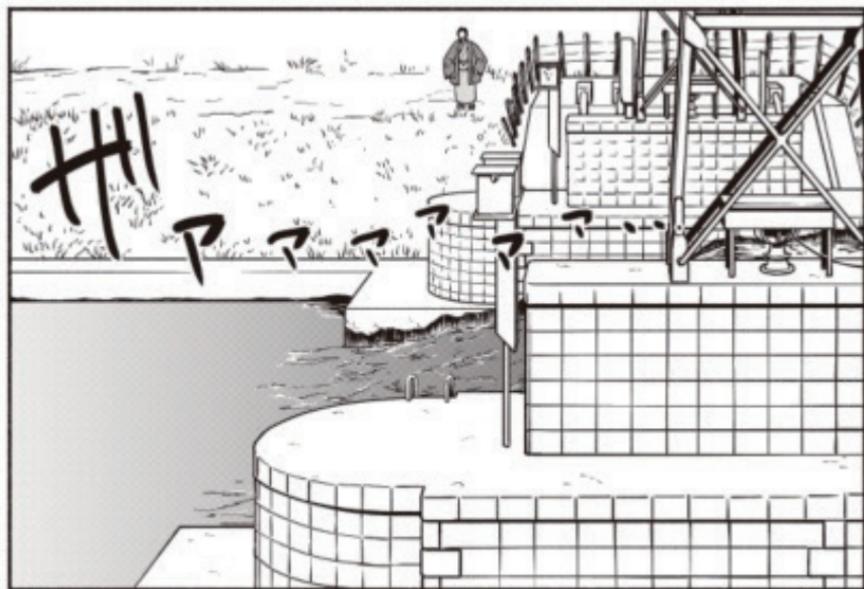
水みずが通とおった…

おおこうづばんすい  
大河津分水が  
かんせい  
完成したぞ！



みてるか？  
とうさん！  
父さん！

実入、この時七十歳  
江戸幕府に工事の  
願いが出されてから  
実に二百年後のことだった



なんども  
何度見ても  
立派な堰だ！



これが完成  
したって事は…

私の仕事は  
終わりがかな



大正十二(一九二三年)  
通水を見届けた実入は

内務省を辞めて  
現場から  
一步身を引く







大河津分水の  
完成祝いかあ  
熱い想いが  
こみ上げてくるね

ウキ

ウキ

あの人も呼んで  
あの人に挨拶してもらおうかなあ  
あの人の家なんて江戸時代から…

そうか…

こんなに  
嬉しいのは

江戸時代から  
二百年分の  
願いが叶ったからだ

昔の人たちはずっと  
大河津分水建設の願いを  
私たちまで伝えてくれた

だから私たちは  
完成させることが  
できたんだなあ



実入、大河津分水はな

越後の未来を創る川だ！



未来に伝えたいな  
大河津分水建設に関わった  
人たちの想い

そして未来の新潟の人たち  
にも大河津分水を大事に  
してもらいたい！

たいしやう  
大正十三(一九二四)年

かんぬし  
神主さん  
ねが  
お願いします！

やどにんじや  
弥彦神社に  
おほつづかみ  
大河津分水の工事  
しりやう  
資料を寄付させて  
もらえないでしょうか？

ここで保管して  
もらえればのちの  
よまで工事の事が  
つた  
伝えられるはずです！

みのり  
実入が寄付したのは  
こうじ  
工事を願いだした時の  
しりやう  
資料や水害資料

その数なんと  
やく  
約六百点





おおこうづ ぶんすい  
大河津分水は  
りっぱ  
立派だか…

よこ  
横の土手は  
なんだかさみしいなあ



もつとこう…  
ふうりゅう かん  
風流な感じに  
ならんかなあ

あ

そうだ！



工事で亡くなった人たちの  
供養のためと

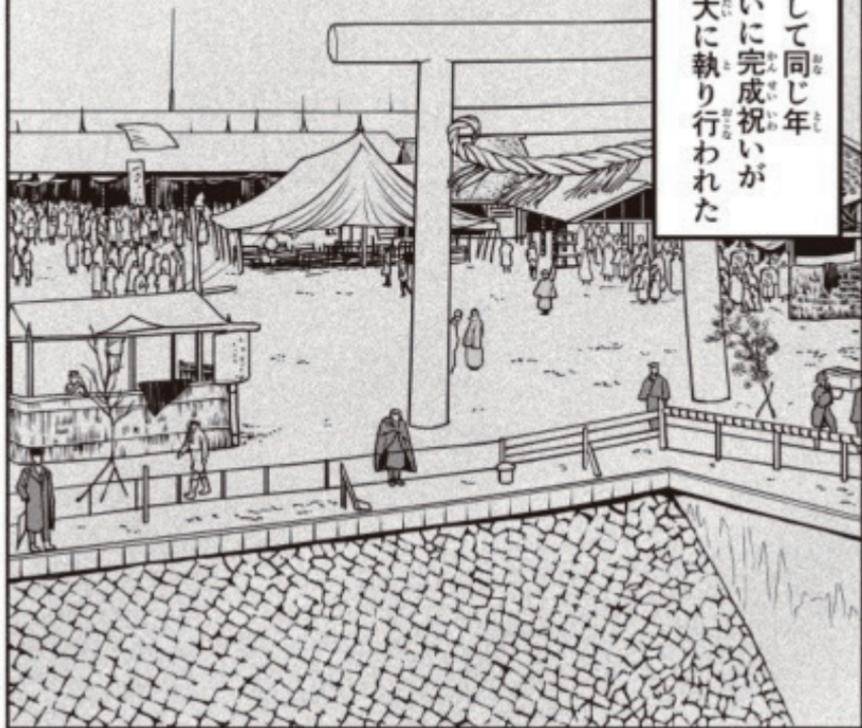
この桜を見てみんなが  
大津分水の大切さを  
思い出してくればなと  
思っ  
てね

それはいいね！  
みんなでやろうよ！

こうして実入が  
山宮半四郎らと始めた  
信濃川大津分水路  
保勝会が植えた桜は

現在でも  
「おいらん道中」で  
有名な桜となっている

そして同じ年  
ついに完成祝いが  
盛大に執り行われた



この式が  
実入にとつての

大河津分水事業の  
総仕上げであった



会議室

田沢さん  
今までありがとうございます！

大変難しい工事を  
支えてくれて  
本当に助かりました

こちらこそ今まで  
ありがとうございました

御用済付信濃川大河津分水工事  
竣功式準備関係事務囑託ヲ解ク

大正十三年三月三十一日

内務省新潟県出張所

サアアア...

田沢さん！  
大河津分水の建設は  
あなたのおかげだよ！

村のみんなと  
話し合ってた  
田沢さんの銅像を  
建てたいんだ！

おいおい！  
銅像は勘弁してくれよお  
自分の銅像なんて恥ずかしい！



それに自分でさ  
いいもん作っちゃった  
からさ

何を作ったんだい？

私の墓さ！

うれしくも心にかかる  
雲暗れて高嶺にすめる  
月を見るかな



田澤水一様  
嘉永五年  
和月二日  
没

この墓はさー





おおこうづぶんすいほう  
大河津分水の方を  
むいた建つてゐるんだいや！

昭和三(一九二八)年

実入は  
七六歳の生涯を終え  
この墓に眠る



こうして  
大河津分水は  
のちの世の人にも  
伝えられて



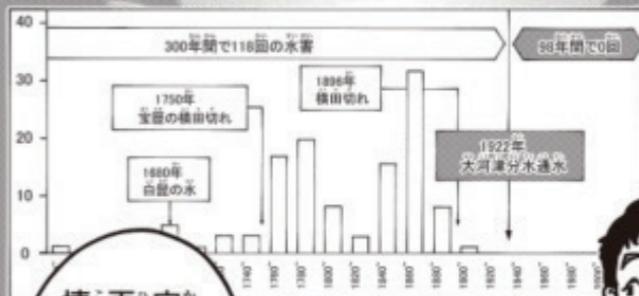
令和四(二〇二二)年  
通水百周年になるんだよ

へえ〜



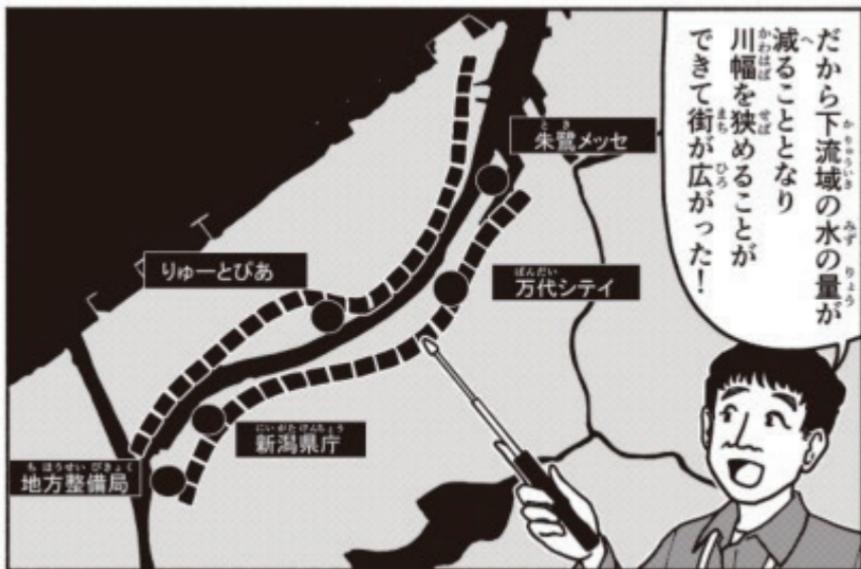
大河津分水ができて  
新潟はどのように  
変わったんですか？

そうだね、  
まずはなんととっても  
すいがい  
水害がほとんど  
無くなったこと！



かんせいで  
完成してから信濃川は  
ひんかんにいざとていぼうが  
百年間一度も堤防が  
壊れていない！

だから下流域の水の量が  
減ることとなり  
川幅を狭めることが  
できて街が広がった！





そしてなにより  
収穫できるお米の  
品質がぐっと上がったんだ！



新潟のおいしいお米は  
大津分水のおかげ  
なんだ〜！

大津分水って  
すごいんだね！

そうだね  
大津分水は  
新潟のかけがえのない  
財産なんだ

実入も  
そのことについて  
桜の碑にこんな言葉を  
残しているよ



そっか！  
私たちも  
大河津分水を  
大事にしないとね

感動！

実入の  
想いの強さに  
先生は感動  
しました！

先生泣きすぎ...



泣いてる場合  
じゃないですよ  
先生！

実入のこの治水への  
想いは実入亡き後も  
多くの人たちに受け継がれて  
今があるんです！

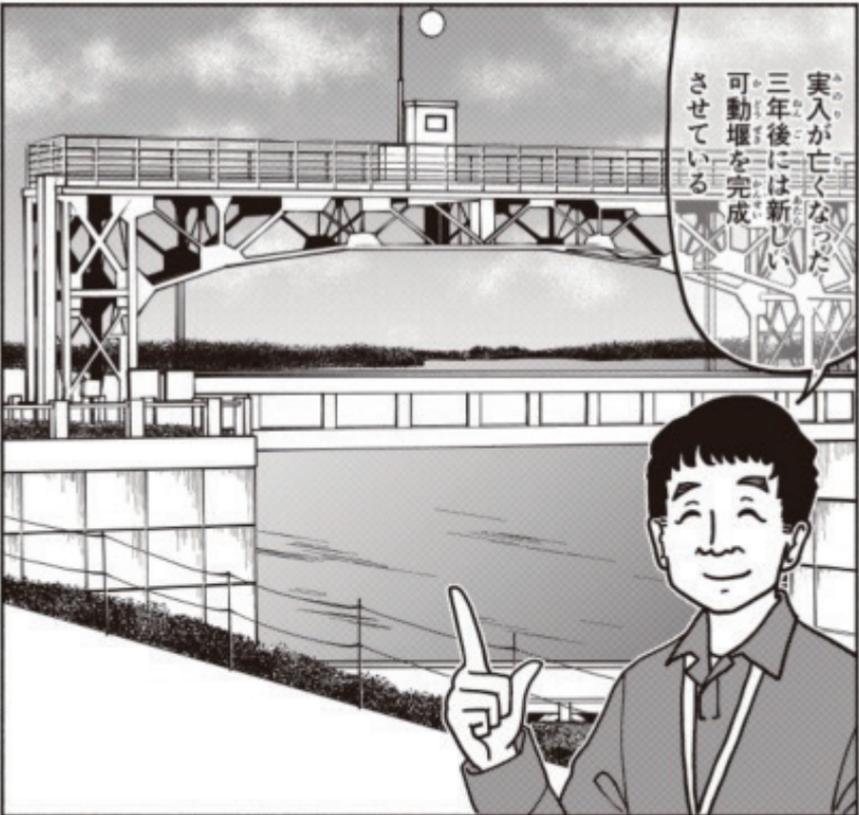
え？

例えば  
完成後すぐの  
昭和二（一九二七）年



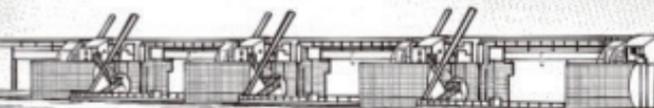


河床洗堀※によって  
自在堰が陥没  
してしまった時も

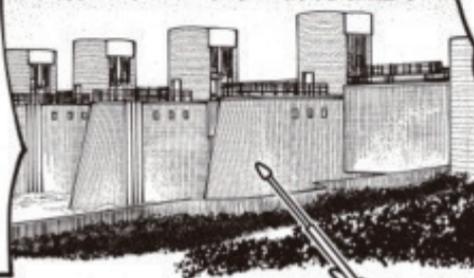


実入が亡くなった  
三年後には新しい  
可動堰を完成  
させている

平成23(2011)年 新可動堰通水



平成12(2000)年 新洗堰通水



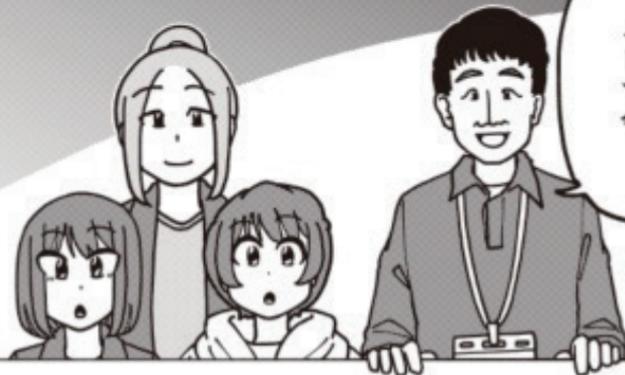
おお  
大きい!

そしていろいろな工事を経て  
現在は洗堰も可動堰も  
新しいものになっているんだよ!



さらに未来へ  
繋がる工事が  
行われているよ

そして今、



それが  
「令和の大改修」と  
呼ばれる一大工事だ！

この工事は  
どんなことを  
しているんですか？

地球の気温上昇(温暖化)  
によるとされる大雨が  
たびたび起きて  
過去の水量を  
たくさん超える  
ようなことが  
起こるようになった

それで河口付近の川幅を  
広げて周りも  
整備しちゃおうって  
工事なんだ！

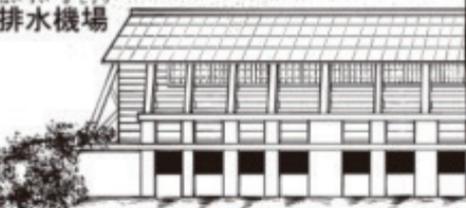
たくさん水が流れる  
ようにするんですね！

こうしたたゆまぬ  
治水への取り組みが

今の新潟を  
作っているんだよ

たとえば新潟には  
いろんな地域に  
排水機場と呼ばれる  
施設がある

栗ノ木排水機場



低い土地にたまっていく水を排水するために昭和二三(一九四八)年から栗ノ木排水機場が



親松排水機場60トン/s

昭和四三(一九六八)年からは親松排水機場が毎日たまった水をポンプで汲み出しているよ



親松排水機場は毎秒60トンもの水を信濃川へ汲み出しているんだ!

まいびょう  
毎秒  
60トン

すごい量!



そのほかに  
新川河口排水機場や  
西川排水機場  
鳥屋野潟排水機場をはじめ

その他たくさん  
の排水機場  
によって今の  
越後平野は  
乾いた土地を  
維持でき  
ているんだ

新川河口排水機場



鳥屋野潟排水機場 40トン/s(洪水時)

新潟の毎日  
は治水に支え  
られてい  
るんですね！

新潟の治水  
ってす  
ごい！

そう  
だよ！

新潟の暮ら  
しは水害と戦  
い、水と共に  
生きてきた昔  
の人たちの  
努力の結晶  
なんだ

実入みいりのような昔むかしの人ひとたちの  
故郷こきょうへの想おもいを受うけ取とって  
どう未み来らいへ活わかすか

それは今いまも続つづいていいる  
次つぎはみみんんなながそその想おもいを受う  
け取とる番ばんなんだよ

はい!



みんなはどんな新漕にいがたの  
未来みらいをつくりたい？

素敵すてきな未来みらいを  
楽したのみにしているよ！



し りょう へん  
資 料 編



たざわよいちろう  
田沢与一郎



みのり  
実入

(たざわけのアルバムより)



たごわみのり おおこうづ ぶんすい ねんびょう  
**田沢実入と大河津分水 年表**

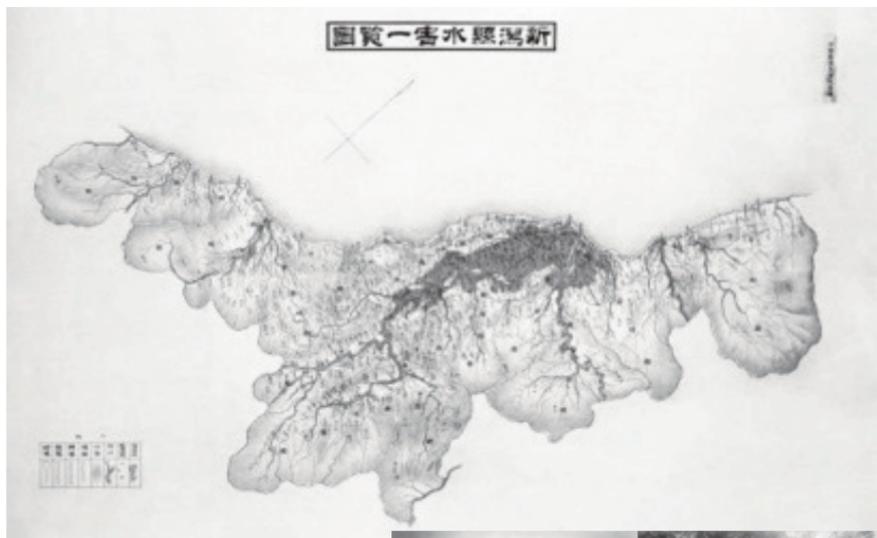
せいれき 西暦	げんごう 元号	で き ご と
1852	かえい 嘉永5	みのり きゅうふるかわむら げんざい にいがた しのみくしろ ねふるかわ 実入 旧古川村（現在の新潟市南区白根古川）に う 生まれる
1865	けいおうがん 慶応元	みのり ちち よいちろう おおこうづ ぶんすいこうじ ぼくふ ねが 実入の父 与一郎が大河津分水工事を幕府に願 いで い出る
1868	めいじが 明治元	しなのがわだいこうずい よいちろう おおこうづ ぶんすいこうじ しんせいふ 信濃川大洪水 与一郎が大河津分水工事を新政府 などに願いで い出る
1870	めいじ 明治3	おおこうづ ぶんすいだい きこうじ ちゃっこう よいちろう こうじ 大河津分水第1期工事着工 与一郎も工事にわか か わる
1875	めいじ 明治8	おおこうづ ぶんすいだい きこうじ ちゅうし 大河津分水第1期工事中止
1881	めいじ 明治14	しなのがわ ちすいろん 『信濃川治水論』を発表
1882	めいじ 明治15	しなのがわ ぶんすいがいしゃ せつりつ しなのがわ ちすいろんぞくへん はっぴょう 信濃川分水会社を設立 『信濃川治水論続編』を発表
1883	めいじ 明治16	みのり けんぎ かいぎいん とうせん よいちろう びょうき な 実入 県議会議員に当選 与一郎が病気で亡くなる



せいれき 西暦	げんこう 元号	で き ご と
1886	めいじ 明治19	けんぎかいぎいん じしょく にいがたけんちょうしよくいん 県議会議員を辞職 新潟県庁職員となる
1893	めいじ 明治26	ないむしょう 内務省に入る いご ひろしま ぎふ こうち どぼくぎょうせい 以後、広島・岐阜・高知などで土木行政にかかわる
1896	めいじ 明治29	よこたぎ ほっせい えちごへいや ぜんいき しんすい だい 「横田切れ」発生 越後平野のほぼ全域が浸水し大 さいがい 災害となる
1900	めいじ 明治33	とうきょうし どぼくぶちょう 東京市土木部長になる
1901	めいじ 明治34	しんぶん おおこうづ ぶんすい にいがたけんみん つ げん 新聞に「大河津分水について新潟県民に告ぐ」原 こう おく けいさい 稿を送り掲載される
1907	めいじ 明治40	おおこうづ ぶんすいだい き こうじ ちやうこう こうじ げんばしゆにん つと 大河津分水第2期工事着工 工事の現場主任を務 める
1910	めいじ 明治43	おおこうづ ぶんすい さくら しょくじゆ はじ このころから大河津分水に桜の植樹を始める
1922	たいしょう 大正11	がつ にち おおこうづ ぶんすいつうすい 8月25日 大河津分水通水
1923	たいしょう 大正12	ないむしょう たいしよく さい 内務省を退職する (71歳)
1928	しょうわ 昭和3	えいみん さい 永眠 (76歳)

# よこたぎ 横田切れ

ねん めいじ がつ にちはっせい  
1896年(明治29)7月22日発生



にいがたけんすいがいいちらんず おおたけてい きねんかんしよぞう  
(新潟県水害一覽図 大竹郎記念館所蔵)

めいじ ねんしなのがわだいこうすい どぼくがっかいしよぞう  
(明治29年信濃川大洪水 土木学会所蔵)



おおこうづ ふんすいだい きこうじ ちゃっこう だすいがい つぼめしよこた てい  
大河津分水第2期工事が着工されるきっかけとなった大水害です。燕市横田の堤

ぼう やく けっかい よこたぎ よ  
防が約360メートルにわたって決壊したことから、「横田切れ」と呼ばれています。

よこた にいがたけんない ていぼう けっかい しよ のぼ えち こへい や  
横田をはじめ、新潟県内の堤防の決壊は874カ所に上りました。越後平野のほ

しんすい げつ みず ひ ちいき はんい しめ  
とんどが浸水し、3カ月たっても水が引かない地域もありました。その範囲を示

えず さくせい ひさいち さつえい きちよう しゃしん のこ  
した絵図が作成されたほか、被災地を撮影した貴重な写真も残されました。

# おおこうづぶんすい 大河津分水

ねん めいじ ちゃっこう ねん つうすい  
1907年(明治40)着工～1922年(大正11)通水



しゃしんひだりおおこうづぶんすいだい きこうじ / しゃしんみぎ おおこうづぶんすいつうすい 信濃川大河津資料館收藏  
(写真左:大河津分水第2期工事 / 写真右:大河津分水通水)

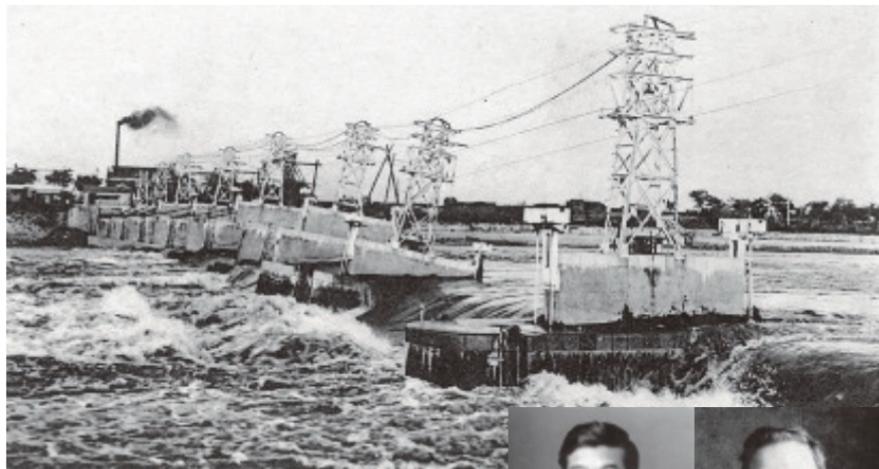
にっぽんいちなが たいが しなのがわ かりういき すいがい まも じんこうかせん おおこうづぶんすい  
日本一長い大河、信濃川の下流域を水害から守っている人工河川が大河津分水  
しなのがわ もっと にほんかい ちか ちてん やく さき にほんかい こう  
です。信濃川が最も日本海に近づく地点から約10キロメートル先の日本海へと洪  
ずい に えちこへいや すいがい まも  
水を逃がすことによって、越後平野を水害から守っています。

おおがたどぶくきかい ゆいゆう の まんにん こうじ たずさ  
イギリスやドイツから大型土木機械を輸入して、延べ1000万人が工事に携わる  
とうよういち きぼ とちゆうだいきぼ じすべ はっせい こうじなん  
など、東洋一の規模といわれました。途中で大規模な地滑りが発生し、工事は難  
こうきわ つうすい ねん  
航を極めたため、通水まで15年もかかりました。

おおこうづぶんすい にいがたけん あんてい のうぎょう  
大河津分水のおかげで、新潟県は安定した農業ができるようになり、「コシヒカ  
たんじょう こくない りょうしつまいせいさんけん  
り」の誕生によって国内トップクラスの良質米生産県になりました。

# しなのがわほしゅうこうじ 信濃川補修工事

ねんしょうわ ちゃっこう ねんしょうわ かんせい  
1927年(昭和2)着工～1931年(昭和6)完成



かんぼつ じざいげき しなのがわおんこうづ しりつかんしゅう  
(陥没した自在堰 信濃川大河津資料館収蔵)



しやしんひだりあおやまあきら しやしんみぎ みやもとたけのすけ  
(写真左:青山士/写真右:宮本武之輔)

おおこうづ ぶんすい つうすい ねん ねん こ とつぜん りゅうりょう ちようせつ じざいげき  
大河津分水が通水 (1922年) して5年後に突然、流量を調節する「自在堰」が

かんぼつ しなのがわ ほんりゅう みず なが さいがいきゅう  
陥没しました。信濃川の本流に水が流れなくなる災害級のトラブルとなりました。

この危機を乗り越えるため、国は、青山士と宮本武之輔の2人を責任者として

にいがたけん ふにん も どぼくぎじつ たか けんしんてき どりよく  
新潟県に赴任させました。2人が持っていた土木技術の高さ、献身的な努力、そ

じもと きょうりよく かんぼつ じざいげき あたら かどうげき ねん かんせい  
して地元の協力により、陥没した自在堰にかわる新しい可動堰が4年で完成しま

いこう おおこうづ ぶんすい おお はっせい  
した。これ以降、大河津分水で大きなトラブルは発生していません。



おおこうづぶんすい れいわ だいかいしゅう  
**大河津分水「令和の大改修」**

ねん へいせい  
 2015年(平成27)～



かいしゅうこうじ すず かこうづ しなのがわ せんじ むしょていきょう  
 (改修工事が進む河口部 信濃川河川事務所提供)

つうすい ねん いじょう けい か おおこうづぶんすい じやくてん ほきょう あら きこうへんどう  
 通水から100年以上が経過した大河津分水の弱点を補強し、新たな気候変動によ  
 きろくてき おおあめ たいおう ねん へいせい かいしゅうこうじ すず  
 る記録的な大雨にも対応するため、2015年(平成27)から改修工事が進められてい  
 ます。より多くの洪水を日本海に流せるように、山地を削って川幅を広げ、流れを  
 やわ かわぞこ こうどうぶつ かいりょう のづみばし か か おお こうじ  
 弱める川底の構造物を改良し、野積橋を架け替える大がかりな工事となっています。

ねん れいわ がん かんそくしじょうさいだい りゅうりょう きろく あんぜん こうずい  
 2019年(令和元)には、観測史上最大の流量を記録したため、より安全に洪水を  
 なが ついか こうじ おこな こうじ きかん ねんえんちよう ねん れいわ  
 流せるように追加の工事も行っています。工事期間は6年延長され、2038年(令和  
 20)までとなり、総事業費は1765億円と見込まれています。これだけの大規模工事  
 ぜんこく れい どぼく まな だいがくせい しざつ おとず  
 は全国でもあまり例がないため、土木を学ぶ大学生らが視察に訪れることもあります。

た ざ わ よ い ち ろ う み の り  
**田 沢 与 一 郎 ・ 実 入**

お や こ お お こ う づ ぶ ん す い じ つ げ ん ち か ら つ  
**親 子 で 大 河 津 分 水 の 実 現 に 力 を 尽 く す**



た ざ わ け し ゅ う へ ん ふ じ ゅ う に い が た し ね ん く し ゅ う ね ふ る か わ  
 (田 沢 家 周 辺 の 風 景 (新 潟 市 南 区 白 根 古 川))

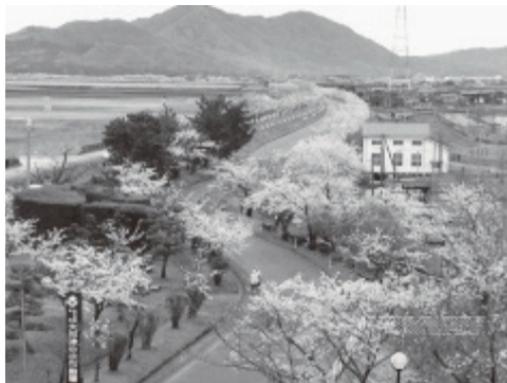


しゃ し ん ひ だ り た ざ わ よ い ち ろ う しゃ し ん み ぎ た ざ わ み の り  
 (写 真 左 : 田 沢 与 一 郎 写 真 右 : 田 沢 実 入)

き ょ う ふ る か わ む ら げ ん ざ い に い が た し み な ん く し ゅ う ね ふ る か わ し ょ う や つ と た ざ わ よ い ち ろ う  
 旧古川村、現在の新潟市南区白根古川で庄屋を務めていた田沢与一郎は、1865  
 ね ん け い お う が ん し ぼ た ぼ ん き ょ う り よ く お お こ う づ ぶ ん す い つ く ぼ く ふ ね が で  
 年(慶応元)に、新発田藩などと協力して、大河津分水を造るよう幕府に願ひ出  
 ます。時代が明治に変わると大勢の仲間が加わり、新しい政府に大河津分水を着  
 じ だ い め い じ か お お ぜ い な か ま く わ あ た ら せ い ふ お お こ う づ ぶ ん す い ち ゃ っ  
 工するよう求めます。そして、1870年(明治3)に建設が始まります。これを第  
 こ う も と ね ん め い じ け ん せ つ は じ だ い  
 1期工事と呼んでいます。まだ工事に使う機械がなかったため、人力のみで分水  
 き こ う じ よ こ う じ つ か き か い じ ん り き ぶ ん す い  
 路を掘る大変な工事で、与一郎もかかりました。

が い こ く じ ん ぎ し お お こ う づ ぶ ん す い し な の が わ な が す い り ょ う へ  
 ところが、外国人技師から「大河津分水ができると、信濃川に流れる水量が減っ  
 に い が た こ う ど し ゃ ふ ね い き い げ ん  
 てしまい、新潟港に土砂がたまって船の行き来ができなくなる」などという意見  
 だ こ う じ ち ゅ う し お こ ら く た ん ち ち よ い ち ろ う た す  
 が出されたため、工事は中止に追い込まれました。落胆する父、与一郎を助け、  
 こ う げ し ひ つ お お こ う づ ぶ ん す い じ つ げ ん と く ち ょ う な ん み の り  
 その志を引き継いで、大河津分水の実現に取り組んだのが、長男の実入です。

おおこう づ ぶんすい い ぎょう つた さくらなみ き  
 大河津分水の偉業を伝える桜並木  
 た ざ わ み の り そ く せ き  
 - 田沢実入の足跡 -



「日本さくら名所100選」に選定されている大河津分水の桜並木です。植樹は、大河津分水が通水する10年ほど前から始まり、最盛期には約6000本の桜が咲き誇りました。桜を植えた田沢実入と山宮半四郎（元分水町長）は「桜を見るために多くの人たちに大河津分水に来てほしい。そして、大河津分水通水を実現した多くの人たちの想いや努力を忘れないでほしい」と資料に書いています。

現地に建立された「さくらの碑」（写真右）には田沢実入の短歌が刻まれています。時代を超えて、大河津分水の偉業が語り継がれるよう願った実入の思いが伝わってきます。

ち はる さくらばな  
 いく千春 かはらでにほへ 桜花  
 う ひご ち  
 植えにし人は よし散りぬども



えちごへい や まも がみ みまも たざわみのり  
 「越後平野の守り神」を“見守っている”田沢実入



おおこうづ ぶんすい つうすい むか ねん れい わ がつふつか にいがた しみなくしろ ね  
 大河津分水が通水100年を迎えた2022年（令和4）4月2日、新潟市南区白根  
 ふるかわ たざわけ ぼしょ たざわみのり こうせき かた つ けんしょう ひ こんりゅう  
 古川の田沢家墓所に田沢実入の功績を語り継ぐため、顕彰碑が建立されました。  
 おもてめん すいがいこんぜつ おんじん きぎ しゃしんひだり  
 表面には「水害根絶の恩人」と刻まれています。（写真左）

おおこうづ ぶんすい じつげん しょうがい のり せいかつ くる たはた ひと  
 大河津分水の実現に生涯をかけた実入の生活は、苦しいものでした。田畑が人  
 で わた せいかつ くる てんしよく れんぞく ちすいどうか けん  
 手に渡り、生活が苦しくなったことなどから転職の連続です。治水運動家から県  
 ぎ かい ぎいん てん けんちよう つと こうきようじぎょう しょかん ないむしょう はい  
 議会議員に転じ、県庁に勤め、さらに公共事業を所管していた内務省に入ります。

おおこうづ ぶんすい もと がわ つく がわ たちば か どぼくぎじつしゃ みと  
 大河津分水を求める側から造る側へと立場を変え、土木技術者として認められる  
 ぞんざい なりませう いちじ とうきょうし 土木部長 という 要職に 就いて いました が、 待ち  
 のぞ おおこうづ ぶんすい ちやっこう き ふるさと もと ぶんすいこうじ げんぼしゆにん つと  
 望んだ大河津分水の着工が決まると、故郷に戻り分水工事の現場主任を務めます。

せいぜん きぼう たざわみのり はか しゃしんみぎ とお はな おおこうづ ぶんすい ほうこう  
 生前の希望により田沢実入の墓（写真右）は、遠く離れた大河津分水の方向を  
 む みらい しょうがい じつげん えちごへい や まも がみ  
 向いているそうです。未来のため、生涯をかけて実現した「越後平野の守り神」  
 みまも たざわみのり  
 を、さらに見守っているのが田沢実入です。

きょうりよく  
【協力】

たざわけ  
田澤家

こくど こうつうしょうほくりくち ほうせい びんくしなの がわ か せん し むしよ  
国土交通省北陸地方整備局 信濃川河川事務所

しなの がわおおこうづ しりょうかん  
信濃川大河津資料館

つゆし  
燕市

しろね こうと ち かいりょうく  
白根郷土地改良区

みず  
水ラボコンソーシアム

SKY FINDER

いじん せいさくかつようけんとう いんかい  
【偉人マンガ製作活用検討委員会】

おおな たかし たざみのりけんこうかい かいちよう  
大那 孝 (田澤真人顕彰会・会長)

つぼかわ ふじお おおえながい だまつねけんこうかい ふくかいちよう  
坪川 藤夫 (大江長井・応庸顕彰会・副会長)

こすずみ ほこ あなぐさいくしえん しよう  
小菅美穂子 (南区教育支援センター所長)

おおはし たざわけだいいよう  
大橋 チイ (田澤家代表)

こばやし けいこ たざわけだいいよう  
小林 桂子 (田澤家代表)

シカクメガネ (マンガ作家)

はせがわやすお にいがたいじんけんこうかい じむむ(ちよう  
長谷川安生 (新潟偉人研究会・事務局長)

せきざき まさあき だいいんきんじよ  
関崎 正明 (榎第一印刷所)

おがわ ともかず じぎょうぶ ぶちよう  
小川 知一 (榎ガタケット・コンテンツ事業部・部長)

ときた ようこ (有)イーエフプロデュース)

おりはら まさあき すいしんきようぎかい  
織原 正明 ((特非)にいがたデジタルコンテンツ推進協議会)

きかく うんえい  
【企画・運営】

にいがたしのみやくやくしよ  
新潟市南区役所

せいさくきようりよく  
【制作協力】

とくていひえいりかつどうほうじん  
特定非営利活動法人

にいがたデジタルコンテンツ推進協議会

## マンガふるさとの偉人

# 田沢実入と大河津分水

令和5年2月28日 初版発行

- 構成 / 原 義雅
- 監修 / 浮須修栄 樋口 勲
- 作画 / シカクメガネ
- 制作 / 新潟市南区役所
- 発行 / 新潟市南区役所

〒950-1292 新潟市南区白根1235番地 Tel. 025-373-1000 (代表)

- 印刷 / 株式会社第一印刷所

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上の例外を除き、禁じられています。本書を  
代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内での利用であっても  
著作権法上、認められておりません。

マンガふるさとの偉人

たざわ みのり

田沢実入と

おおこうづ ぶんすい

大河津分水

Supported by  日本 財団 THE NIPPON  
FOUNDATION

